

令和2年度事業報告

令和2年度は、令和2年3月の第18回理事会の議決を経た事業計画に基づき、講演会、シンポジウム、助成、国内の支援活動、広報及び橋梁の診断業務等を実施した。

1 実施事業等

1-1 研修等

(1) 道路橋点検士技術研修会

令和2年度の道路橋点検士技術研修会は、4回開催計画したものの、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により開催しなかった。平成6年度からの累計開催数は107回で、累計の研修修了者は14,937名である。

さらに、道路橋点検士委員会において道路橋点検士技術研修会と同等であると認定された他機関が実施する道路橋の点検に関する研修等の合格者等のうち、受験希望者に対し道路橋点検士補検定試験を1回実施し、1名が合格した。

(2) 道路橋点検士制度

道路橋点検士及び道路橋点検士補の登録者数は以下のとおり。平成26年度に「国土交通省登録資格」として登録した道路橋点検士につづき、平成27年度に登録した道路橋点検士補は、5年度ごとに更新する必要があるため、令和2年度に登録の更新を行った。

	登録者数		国土交通省登録資格
	令和2年度	累計	
道路橋点検士	263名	7,813名	令和2年2月更新
道路橋点検士補	43名	1,234名	令和3年2月更新

道路橋点検士及び道路橋点検士補の更新期限を迎える方を対象とする道路橋点検士更新講習会を開催した。令和2年度は平成26年度から29年度に登録された道路橋点検士及び平成27、28年度以降に登録された道路橋点検士補を対象とし964名が受講した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として会場方式の講習を取り止め、希望者に講義を収録したDVDを送付する自己学習方式にて実施した。

1-2 自主研究

(1) 橋梁保全に関する調査研究

AIを活用した道路橋メンテナンスの効率化に向け、令和2年度は令和元年度に引き続いて共同研究に参画し、主に診断AIの開発として熟練技術者の経験的な知識等についての体系化等を行った。

(2) 国際会議への参加

例年、国際会議等に職員を派遣し、橋梁技術等に関する意見交換、情報収集を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催が中止・延期され、参加を取り止めた。

(3) 賛助会員特別講演会の開催

平成 25 年度より賛助会員を対象として、橋梁調査会の取組みと時事テーマを取り上げた講演会を開催している。令和 2 年度は 4 月に開催を計画したものの新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀なくされ、結果として録画 DVD を賛助会員へ配布することとした。東北大学大学院工学研究科教授兼インフラ・マネジメント研究センター長の久田真氏より「Society 5.0 の実現と建設分野の役割～100 年先まで引き継げるまちづくりへ～」をテーマとして講演が行われた。

(4) 橋梁シンポジウム

平成 25 年度より「国際橋梁シンポジウム」を 5 回開催してきたが、広く橋梁に関する技術の継承と発展を図り、知識やノウハウの提供の場とするため、発展的に改組し、「橋梁シンポジウム」とした。講演テーマは、「橋を廻る新技術」とし、基調講演は城西大学学長の藤野陽三氏より「橋梁マネジメントの 3 つの側面—新規投資、メンテナンス、そして災害対応—」と題し行われた。さらに、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、国土技術政策総合研究所より講演が行われた。

なお、開催方式はオンデマンド方式とし、視聴希望者は 1,138 名となった。また、希望者 278 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

(5) 助成

橋梁技術に関する研究開発に関して公募し、優秀計画と認められる 4 件 5 者に対して、当該研究開発に要する費用の一部を助成した。

- 新たな木質材料 CLT（直交集成材）の床版用途に関する研究
- AR による橋梁の変状図の可視化システムの研究開発
- 橋梁各部位の水環境の定量評価と台風による飛来塩分がコンクリート橋に与える影響
- 橋梁観測データを活用した強風時車両走行安全性の評価

(6) 寄附

- ・ 京都大学の「道路アセットマネジメント政策（橋梁調査会）講座」へ寄附

橋梁・舗装マネジメント等の道路管理に関する政策の一環として、今後のより高度で効果的・効率的なアセットマネジメントの立案及び実施方策に関して研究を行う講座へ寄附を行った。

設置期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

1-3 広報

(1) 機関誌「J_BEC レポート」の刊行

機関誌「J_BEC レポート」Vol.16 を刊行した。

(2) 各種国内会議・イベント等への協力

各地方整備局等が主催する建設技術展等のイベントに参加し、橋梁の点検・診断技術等に関する発表を行うとともに、展示を行った。

また、「建設技術フェア2020in中部」等への後援、「道路ふれあい月間」等への協賛を行った。

2 その他事業

2-1 調査研究業務

(1) 橋梁の診断業務

平成31年2月及び3月に改訂された国土交通省の「道路橋定期点検要領」及び「橋梁定期点検要領」に基づき、直轄国道の橋梁診断業務を実施した。

(2) 橋梁工事技術審査支援業務

四国地方整備局が実施する総合評価方式による橋梁工事について、入札評価手続きに関する支援業務を実施した。

(3) 橋梁点検用ロボット開発導入支援業務

令和2年度新技術導入促進計画における技術テーマのうち「橋梁の点検支援技術」について、当該技術分野に精通する専門家等からなる技術検討委員会の設置・運営等を行った。審議を通じて助言を得ながら技術の公募や確認（実証）を行うとともに、橋梁の点検において支援技術を活用するために必要な方策の検討を行った。

(4) 国の道路橋維持管理施策に関する業務

道路メンテナンス年報の作成にかかる点検実施率、点検診断結果、判定区分Ⅳの施設の措置状況、さらに修繕実施状況等のデータ整理を実施した。

(5) 地方公共団体の道路橋維持管理に関する支援業務

島根県等地方公共団体が実施している橋梁の維持管理全般を支援するために、橋梁の点検・診断、補修・補強に関する諸問題に対してアドバイスを実施した。

山口県が管理する橋梁の長寿命化に資する耐久性向上策の検討を行った。

2-2 人材育成支援業務

国土交通省及び地方公共団体の職員を対象として、橋梁の維持管理等に関する研修を支援した。

2-3 出版

「道路橋の補修・補強計算例Ⅱ」他の図書の販売を行った。

3 その他

3-1 会議の開催

(1) 理事会

第19回理事会 令和2年6月11日（書面による決議）

決議事項：令和元年度事業報告及び決算(案)について

第9回定時評議員会の招集について

報告事項：職務執行状況の報告について

第20回理事会 令和3年3月15日（書面による決議）

決議事項：令和3年度事業計画及び予算について

報告事項：職務執行状況の報告について

(2) 評議員会

第9回評議員会 令和2年6月25日（書面による決議）

決議事項：令和元年度決算（計算書類等）の承認について

理事及び監事の選任について

報告事項：令和元年度事業報告

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年6月

一般財団法人 橋梁調査会